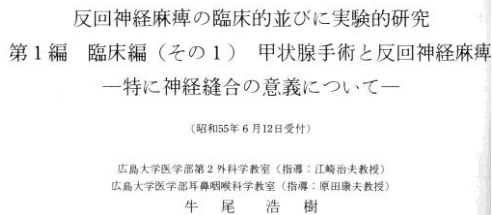


甲状腺外科草子 10

ポケットいっぱいの甲状腺

杉野 圭三

今、手元に一編の論文があります。『反回神経麻痺の臨床的並びに実験的研究』、(牛尾浩樹。日外会誌、82:22-23、1981)と題されたこの論文は甲状腺外科の歴史の中でもエポックメイキングなものとなりました



牛尾浩樹先生の記念すべき論文(翌年、第二編が掲載)

それまで、反回神経は一度切断されると神経吻合を行っても神経の過誤再生(miss direction)が起こり、声帯運動が回復しないから無駄だと結論付けられていました。この論文は従来の常識を破り、反回神経再建により声帯の萎縮を防ぐことができ、発声の改善が認められることを臨床および実験的に証明した最初のものでした。

当時、入局したての私は牛尾先生が甲状腺の研究をされていることを知ってはいましたが、当直室で囲碁に熱中されている御姿があまりにも強烈な印象で、その研究が後年自分と深い関わりをもつなど夢にも思いませんでした。



第38回日本甲状腺外科研究会(神戸、2005年)

宮内昭先生(中央)、牛尾浩樹先生(右)、筆者(左)

この研究を臨床で発展させたのは、今回の第68回日本臨床外科学会総会で招待講演を戴きました宮内昭先生(隈病院院長)です。

反回神経切断を行わざるを得ない甲状腺癌の殆どの症例では、反回神経同士での再建は距離が長すぎて不可能です。そこで、宮内先生は頸神経わなを用いた再建術を考案して(オリジナルのアイデアながら外国で先に発表されていたことが後に判明し、悔しい思いをされたそうです)発展させました。この手技は極めて簡便で応用範囲が広く、甲状腺のみならず、胸部外科、心大血管外科、食道外科にも応用可能な手技です。この分野は宮内先生の独壇場で、これまでに対側頸神経わなの応用、下咽頭収縮筋切開法による再建、など多数の工夫で神経再建の可能性と適応を拡大することに成功されました。



宮内昭先生、第68回日本臨床外科学会総会、招待講演

(2006年11月10日)

進行甲状腺癌で反回神経を切断した場合、外来で患者さんの嗄声を延々と聞くのはつらいものです。しかし、神経再建を行うと4-5ヶ月目から突如として音声回復してくるのには正直なところ驚きました。甲状腺外科医にとってまさに驚天動地の心境で、この手術手技が臨床にもたらした福音は実に大きなものです。

『甲状腺手術は簡単だ』と一年生の時に先輩から教わりましたが、実際にやってみるとこれほど難しい手術はありません。反回神経再建だけでなく、再発を繰り返す進行癌、食道、喉頭浸潤例、縦隔浸潤例など薄氷を踏む思いの手術や外科医としての能力・限界を試

される症例を実に多く経験します。

今回の臨床外科学会のシンポジウム1は『難治性甲状腺癌に対する治療戦略』として、この問題を取り上げました。最近の甲状腺関係のテーマとして内視鏡手術が脚光をあびていましたが、手術適応は良性腫瘍であり、このような症例で治療に苦しむことはありません。甲状腺外科医の全力を挙げても治療選択に困る進行癌について各施設から治療方針と問題点について発表いただき、充分ではありませんが熱いディスカッションをしていただきました。

ビデオシンポ1は『甲状腺・副甲状腺手術の手技の工夫』として、佐々木純先生（栗原クリニック）と不肖杉野が司会を担当させていただきました。



ビデオシンポ1：佐々木純先生（左）、筆者（右）

（2006年11月10日、第68回日本臨床外科学会総会）
佐々木純先生は第27回甲状腺外科検討会（1994）を盛岡にて開催された甲状腺外科の大先輩であり、これまでに多くの発表をされ甲状腺外科の発展に多大な貢献をされています。甲状腺手術手技は各施設独自の手技の工夫（裏技）があり、今回その一端について本音を交えて発表していただきました。佐々木先生から事前に重要な反回神経、副甲状腺など手技について座長アンケートが演者に通達されており、この点について演者間・フロアーの間でマニアックな討論が充分に行なわれました。施設によって反回神経へのアプローチや副甲状腺に対する考え方がこれほど違うものかと正直驚きました。甲状腺手術を行う外科医でこのセッションに参加された方は幸せな人です。これらの発表は学会2日目の午

前・午後と連続してあり、朝から晩まで甲状腺オンパレードの一日でした。

表題のポケットーは往年の名作『ポケットいっぱい幸せ（フランク・キャブラ監督、グレン・フォード、ベティ・デイビス主演1961）』のもじりです（図5）。フランク・キャブラは『一日だけの淑女、（1933）』をいたく気に入り、1961年にこの題名でリメイクしています（個人的には『一日だけの淑女』の方が気に入っていますが）。



左：ポケットいっぱいの幸せ（フランク・キャブラ監督、1961）

右：一日だけの淑女（同監督、1933）

学会2日目は、まさに「幸せいっぱいの甲状腺の一日」となりました。これら企画についてご配慮いただきました浅原利正総会会長に心より深甚なる感謝の意を表させていただきます。

広島大学第二外科同門会紙 DOMON 118（2006）に掲載されたものを一部改変しました。

尚、佐々木純先生は2019年4月1日、大動脈解離のため急逝されました。心より哀悼の意を表させていただきます。

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2021年12月8日